



うしくり通信



スポーツ指導者



今 年前半は**冬季オリンピック**、**サッカーワールドカップ**といった大きなスポーツイベントがあり、その都度感動し、スポーツの素晴らしさを実感することも多かったと思います。一方、**アメリカンフットボールの事件**や、**レスリングの問題**など、スポーツ界の指導者のネガティブな部分も注目されました。



古 来、日本のスポーツには**教育の精神**が色濃く貫かれ、それが今なお大切にされて、そのため指導者は「教え」「学び」という脈絡を大切にし、同時に人間形成の責を過剰に負いすぎるきらいがあります。

ま た、スポーツの社会には「**格**」の概念があります。「格」は年齢と結びつきやすいので、「先輩」「後輩」「同期」といった考え方が、ここでいう「格」となります。儒教的教えからきており、この概念があるからこそ社会がうまく回っていることも否定はできませんが、「格」と結びついたものの見方がスポーツの根幹にあります。

日 本では指導が自分に合わないからよそに行くという行動は疎んじられており、そこには「**個**」を犠牲にしても「**集団**」の行動を優先する社会の仕組みがあります。

以 上のことはスポーツの指導における旧態依然とした部分です。最近では海外でスポーツ教育を受けたり、若くして何らかの競技で留学した選手は、今までの価値観では納得がいかず、指導方法に意見する者が出てきたり、選手の起用法に注文をつけたり、「**格**」よりも「**権利**」を主張する人が増え、「**個**」を**重んじる**指導を望むことが多くなりました。



そ して指導者があまりにも勝ち負けに固執すると、大事なことを見落としがちになります。勝つ監督が称賛されるのはいいのですが、大切なのはそこに至る過程を同じように評価することです。「**あの監督に指導してもらったら動こうとしなかった子に自主性が生まれた**」「**あのチームで育った選手は、社会人になっても子供たちにスポーツを教えている**」など、勝敗だけに特化しない価値観ができれば、指導者評価の内容は大きく変わると思います。

我 が国のスポーツは、これまで**多くの熱心なコーチ**によって支えられてきました。ボランティアとして地元の子供たちにコーチングを行っているコーチ、教員として運動部活動で生徒にコーチングを行っているコーチ、地域スポーツクラブの職員としてコーチングを行っているコーチ、ナショナルチームにおいて世界のトップを目指している競技者・チームに対しコーチングを行っているコーチ等、様々であり、このような多様なコーチがいるなかで、**新しい時代にふさわしいスポーツの指導法の確立と教育**が望まれます。



来 年は**ラグビーワールドカップ**と2年後は**東京オリンピック**が開かれます。スポーツ熱は今後一段と高くなっていきます。「惜しくも4位」ではなく、こんな努力があったから4位になれたというように、**既存の指導方法に固執しない、努力と成果を均等に見ていく**ことで、良いスポーツ指導者が育っていければと思います。

